

第一中学校区魅力ある学校づくり事業  
工事期間中の教育環境の在り方について  
(意見取りまとめ)

令和元年 月 日

交野市学校教育審議会

「在り方・適正配置」専門部会

# 第一中学校区魅力ある学校づくり事業 工事期間中の教育環境の在り方について

## 目次

1. はじめに
2. 第一中学校区における学校の適正配置
  - (1) 現状と課題
  - (2) 学校適正配置の考え方
3. 「第一中学校区における魅力ある学校づくり協議会」の経過
4. 工事期間中の教育環境
  - (1) 5つの案の比較検討
  - (2) 工事期間中の教育環境について（意見取りまとめ）
    - ①学校の設置場所について
    - ②小学校の統合と施設一体型小中一貫校の開校について
    - ③通学の安全について
    - ④魅力ある学校づくりに向けて
5. その他
  - (1) 工事期間中の教育環境の在り方の見直しについて
  - (2) 情報発信、周知について

## 1. はじめに

交野市では、子どもたちの健やかな成長と学校教育の充実を図るため、平成 26 年度より「交野市学校教育ビジョン」を、平成 28 年 1 月に「交野市教育大綱」を策定し、中期的展望に立ち、交野市第 4 次総合計画との整合性を図りながら、また国や府の動向を踏まえながら教育行政を進めています。

交野市は、昭和 40 年代後半から昭和 50 年代にかけて市内各地で盛んに行われた住宅開発等により人口が急増し、児童生徒数の増加に伴い、小中学校の分離・開校が行われました。その結果、昭和 56 年度には小学校の児童数が、昭和 57 年度には児童生徒数が、昭和 60 年度には中学校の生徒数が最大となりました。しかし、その後は減少傾向が続き、今後はさらに、著しい児童生徒数の減少により学校運営に支障をきたす小規模校が複数校現れることが懸念されます。

一方、前述の人口急増期に建設した多くの学校施設は、建築後相当年数が経過し、経年劣化による老朽化の進行により、施設の改修・更新が必要となっているなどの課題もあります。

今後の教育環境の維持向上を図り、更なる少子化、学校の老朽化等の課題や小中一貫教育などの新たな学校づくりに対応するため、本審議会は平成 28 年 7 月に交野市教育委員会より「今後における市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置のあり方」について諮問を受けました。平成 29 年 1 月には、本審議会からの中間答申を経て、交野市教育委員会において「学校規模適正化基本方針～望ましい小・中学校の在り方～」が策定されました。

平成 31 年 2 月に交野市教育委員会において策定された「交野市学校規模適正化基本計画」は、この学校規模適正化基本方針に基づき、本審議会における各中学校区の今後の適正配置の在り方についての答申を踏まえ、パブリックコメントを経て学校施設の将来に向けた望ましい配置やあり方の方向性を具体的に示したものです。

第一中学校区では、長宝寺小学校が全学年 1 学級であり、将来も小規模のまま推移することが見込まれており、将来的にも適正な学校規模となる方策を考える必要があります。また、大部分の建物が築後 40 年以上経過しており、交野小学校と第一中学校は築後 50 年以上経過した建物があるなど、学校施設の老朽化も各校で課題となっていることから、「交野市学校規模適正化基本計画」において、「交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合して、現在の交野小学校敷地に施設一体型小中一貫校を設置する」という方向性が定まりました。

今年度（令和元年度）7 月から実施している「第一中学校区における魅力ある学校づくり協議会」では、学校配置が決定したことを受け、どのように魅力ある学校整備をしていくのかを中心に、学校整備期間中の子どもたちの学びの場の在り方や学校整備中や整備後の通学の安全、これからの教育に適した学校施設の整備の在り方などの検討が進められています。

本審議会「在り方・適正配置」専門部会（以下、本専門部会という。）では、協議会での協議内容や意見等を踏まえ、慎重かつ詳細に審議を重ね、「第一中学校区魅力ある学校づくり事業 工事期間中の教育環境の在り方について」の意見を取りまとめました。

## 2. 第一中学校区における学校の適正配置

### (1) 現状と課題

第一中学校区は、学校規模や学校施設の老朽化の課題など、喫緊の課題を抱える中学校区となっています。各学校の児童生徒数は、令和元年5月1日現在で交野小学校の児童数は552名（内支援学級在籍児童25名）、学級数は19学級（支援学級は6学級）、長宝寺小学校の児童数は154名（内支援学級在籍児童17名）、学級数は6学級（支援学級は3学級）です。また、第一中学校の生徒数は348名（内支援学級在籍生徒は14名）、学級数は10学級（支援学級は3学級）です。

各学校の学校規模は、交野小学校、第一中学校については、推計上、令和27年度まで適正な学校規模で推移すると見込まれていますが、長宝寺小学校については、平成30年度時点で小規模となっており、将来は小規模のまま推移すると見込まれています。【学適 参考資料1】

一方、学校施設は、交野小学校の校舎の建築年度は、1963（昭和38）年で建築後55年経過しており、その健全度評価は「58」、長宝寺小学校の校舎の建築年度は、1974（昭和49）年で建築後44年経過しており、その健全度評価は「78」、第一中学校の校舎の建築年度は、1959（昭和34）年で建築後59年経過しており、その健全度評価は「68」となっており、全ての学校で、大部分の建物が築後40年以上経過しています。特に、交野小学校や第一中学校では、築後50年以上経過した建物があるなど、学校施設の老朽化は各校の課題となっています。【学適 参考資料1】

### (2) 学校適正配置の考え方

第一中学校区の学校適正配置は、交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合し、現在の交野小学校敷地に、施設一体型小中一貫校を設置することとなっています。なお、統合に伴う通学の安全確保や、児童と生徒が同一敷地内で学校生活を送るための施設面及び運営面の工夫、また施設整備の工事中の学校運営など配慮が必要となる事柄について、学校や保護者、地域の方々と十分協議調整の上、魅力ある学校づくりを進める必要があるとしています。

## 3. 「第一中学校区における魅力ある学校づくり協議会」の経過

市教育委員会では、第一中学校区の各学校に関係のある者の意見を聴取すると共に、各学校の関係者等が連携・協力し、新たな学校づくりに係る諸課題について、意見交換等を行う場として、今年度（令和元年）7月に「第一中学校区における魅力ある学校づくり協議会」（以下、「協議会」という。）を設置しました。そこでは、施設一体型小中一貫校の整備に向け、保護者や地域、学校関係者の方々と共に、魅力ある学校づくりを進めるために、施設整備の方法や校舎配置、工事期間中の仮設校舎の在り方や設置場所といったハード部分と、教育課程、学校行事、学年段階の区切りや通学の安全といったソフト部分の両面から、課題の対応策や今後の進め方等について、ワークショップ形式で意見交換をしながら検討を進めています。以下、各回のテーマです。

- ・第1回 地域協議会（令和元年7月14日 19:00～21:00 参加者43名）  
新しい学校づくりに向けて、地域協議会での話し合いで「大切にしたい視点」について
- ・第2回 地域協議会（令和元年8月7日 19:00～21:00 参加者37名）  
「工事期間中の教育環境」を考える。「プランごとのメリット・デメリット」を出し合う。
- ・第3回 地域協議会（令和元年8月29日 19:00～21:00 参加者35名）  
「工事期間中の教育環境」を考える。「デメリットを解消する方法」を考える。
- ・第4回 地域協議会（令和元年9月25日 19:00～21:00 参加者35名）  
「工事期間中の教育環境」を考える。「デメリットを解消する方法の実施主体」を考える。
- ・第5回 地域協議会（令和元年10月17日 19:00～21:00 参加者30名）  
「学校と地域の連携について」を考える。

以上、5回までの協議会で「工事期間中の教育環境」についての意見を取りまとめ、「新設校舎整備参考資料」【学適 参考資料9-1】として、以下の5つの案が提示されました。

- A-1案（仮設校舎を設置して使用する場合）
- A-2案（既存校舎を継続使用する場合）
- B案（長宝寺小学校の敷地に、交野小学校児童が通う場合）
- C-1案（第一中学校の敷地に、交野小学校・長宝寺小学校児童が通う場合）
- C-2案（第一中学校の敷地に、交野小学校児童が通う場合）

また、「地域協議会で出されたプランごとのメリット・デメリット」【学適 参考資料9-2】、「地域協議会で出されたプランごとのデメリットの解決策（案）」【学適 参考資料9-3】も取りまとめられ提示されました。

#### 4. 工事期間中の教育環境

##### （1）5つの案の比較検討

本専門部会では、協議会で取りまとめられた「新設校舎整備資料」【学適 参考資料9-1】と「地域協議会で出されたプランごとのメリット・デメリット」【学適 参考資料9-2】、「地域協議会で出されたプランごとのデメリットの解決策（案）」【学適 参考資料9-3】を参考に、それぞれのメリット・デメリット及び解決策を比較検討しました。

その結果、「子どもたちの学習環境としては騒音・振動がない方が好ましい。」「工事車両に対する注意も考えなければならず、事故が心配だ。」「グラウンドが使えない。」等の意見が出され、A-1案、A-2案は、B案、C-1、C-2案といった他の学校敷地に通う案がある場合は、採

用すべきでないとの結論に至りました。

また、C-1案、C-2案については、整備期間中の騒音・振動はないものの、「いきなり小学生が中学校で生活することには不安がある。」といった意見や「仮設校舎建設中も建設後も第一中学校の生徒の学校生活（学習面・クラブ活動面）にも大きな支障が出る。」といった意見から、採用は望ましくないという結論に至りました。

「騒音・振動は影響せず、長宝寺小学校の施設を使用できる。」、「第一中学校の生徒の学校生活にも影響せず、小学校同士が事前に仲良くなれる。」などの意見からB案の「整備期間中、長宝寺小学校の敷地に交野小学校児童が通う」ことが望ましいとの結論に至りました。

## (2) 工事期間中の教育環境について（意見取りまとめ）

### ①学校の設置場所について

工事期間中の交野小学校児童は、長宝寺小学校の敷地に通うこととし、長宝寺小学校の既存の校舎を使用するとともに、既存校舎の施設以上に必要な部分は長宝寺小学校の中庭等に仮設校舎を設置し、学びの場を確保することが望ましいと考えます。

### ②小学校の統合と施設一体型小中一貫校の開校について

令和4年4月に、現在の長宝寺小学校敷地で交野小学校と長宝寺小学校を統合することで、長宝寺小学校の小規模は解消されるため、望ましいと考えます。なお、施設一体型小中一貫校は、できる限り早期に開校することが望ましいと考え、令和7年4月の新設開校を目指し、施設整備に努められることを要望します。

### ③通学の安全について

工事期間中、子どもたちが安全に登校できるように、今後とも学校・保護者・地域の方々の意見を聞きながら、また関係部局、関係機関等と連携し、ハード、ソフト両面からの安全対策に取り組む必要があると考えます。なお、通学距離が長くなる地域がある当該第一中学校区内において長宝寺小学校または交野小学校までの通学距離は「学校適正化基本方針」に示されている基本とする概ね2km以内の通学距離である事や、市内の他の小学校の通学距離と比較して著しく長いとは言えないことから、スクールバスの運行については、必要ないものと考えます。

### ④魅力ある学校づくりに向けて

令和7年開校予定の施設一体型小中一貫校の「魅力ある学校づくり」を視野に入れつつ、学校、保護者や地域の方々から新設校の学校コンセプトに関する意見等を踏まえ、令和4年度から開校する交野小学校・長宝寺小学校の統合校についても特色ある学校となるよう検討を進められるようお願いいたします。

## 5. その他

(1) 工事期間中の教育環境の在り方の見直しについて

市内小学校及び中学校の適正規模及び適正配置の検討には、児童生徒数や学校施設の老朽化状況、教育内容や財政状況等、現在から将来にわたる様々な要因が絡み合うものです。今後、教育制度の変更や社会情勢の変化などが生じた場合には、必要に応じて見直されることを要望します。

(2) 情報発信、周知について

今後、新たな学校の設置や工事期間中の小学校の学校運営など、具体的な取組を進めていく事になりますが、第一中学校区の保護者や地域の方々に、今後とも「魅力ある学校づくり」の取組にご理解・ご協力頂けるように、適宜、情報発信を行い、広く周知に努められることを要望します。